

午前中にちょっと勉強

大阪市 × 大阪市環境経営推進協議会

取組概要

大指環境経営推進協議会では「午前中にちょっと勉強」というシリーズセミナーを実施しています。その中で令和4年度は、10回の開催を予定しており、第1回と第2回は、大阪市環境局の職員の方に大阪市環境白書の解説をしていただきました。



配布された「令和3年度大阪市環境白書」

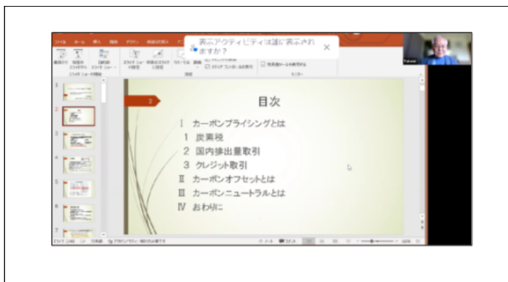


社会的ニーズにこたえるためのプログラム

基本情報

代表地方公共団体	大阪市
代表民間団体	大阪市環境経営推進協議会
他の連携団体等	大阪環境カウンセラー協会
カテゴリ	エネルギー対策／環境保全対策／地域情報・行政情報発信
事業費	無料
めざすSDGsゴール	
事業化までの期間	3か月

取組内容



ZOOMの画面共有で講義開始



高齢者もweb会議に慣れてきました

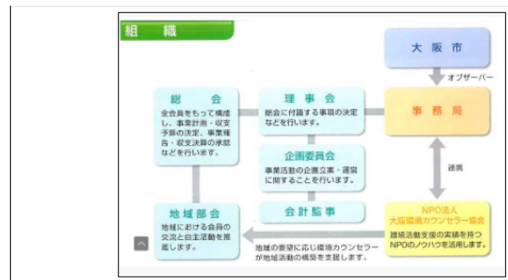
この取組で解決した課題	これまで、大阪市環境経営推進協議会が実施するセミナーや視察研修において、大阪市環境局の情報コーナーは、ありましたが、大阪市の発行している環境白書については、その存在すら知らない事業者がいました。そこで、これまでのスポット的な情報提供ではなく、大阪市の作成した環境白書に基づいて、環境白書を網羅したセミナーを実施しました。
解決に向けた手法	社会的ニーズに応えるため、事業者が自社の立ち位置を考えた時、何をしなければならぬか、そして、何が出来るかを経営の方針として考え、実践していくことが今後の事業継続の明暗を分ける重要なカギとなっています。国・自治体の考え方からその施策は事業者にどのような影響を与えるのかを学び、実践する基礎知識を学んで経営の方向を午前中にちょっと勉強する、解りやすくシリーズ化したミニセミナーとして実施。

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	国・自治体の考えからその施策は事業者にどのような影響を与えるのかを学び、実践する基礎知識を学んで経営の方向を午前中にちょっと勉強するをコンセプトに大阪市環境経営推進協議会が主催し、シリーズセミナーの第1回、第2回を「大阪市環境白書を読み解く」の講師を大阪市環境局職員が担った。
地域関係者との連携方法	大阪市環境経営推進協議会は、大阪市及び市内の事業者・団体が相互に連携協働し、環境経営、環境保全に関する知識と技術の向上及びその交流を図り、もって自主的な環境保全への取り組みの推進と快適な都市環境の保全と創造に寄与することを目的に設立されました。
資金調達方法	会員の会費のみ
資金調達方法の補足	協議会の運営そのものは、会員の会費だけで運営しています。企業や取り組みされていぬ個人の方にセミナー講師をお願いした時は一律1万円の謝金をお支払いしています。
事業推進上の課題・工夫	コロナ禍で、対面のセミナーや視察研修ができない中、ZOOMを活用することで、協議会の活動を止めることなく

担当者のコメント

1回の実施時間は1時間ととても短い時間ではありますが、準備事務局の手間はさほど変わりなく、終わったと思ったらすぐに次回の準備をこなすにはいけません。しかし、事務局だけでなく受講される方々もZOOMセミナーに慣れてこられて、円滑に進むようになりました。



大阪市環境経営推進協議会の組織

優良事例応募項目

取組のポイント（3つの視点）	<p>①地方創生SDGsの視点</p> <p>4.質の高い教育・・・シリーズセミナーに5回以上参加された方には、教育訓練参加証明書を発行。 社員意識の向上、ISOでの教育訓練エビデンス、EA21の環境経営レポート、社内報でのPRに利用するなど社内教育訓練の一貫として活用することも可能。</p> <p>7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに みんなが協力して再生可能エネルギーやその他の環境にやさしいエネルギー類に関する施策など自治体と企業の橋渡しを行う。</p> <p>②ステークホルダーとの連携 大阪市環境局と会員企業が講師を務めたり、会員帰郷から講師を紹介してもらって、多岐にわたる環境保全活動の分野を網羅したセミナープログラムの実施。</p> <p>③モデル性・波及性 コロナ禍において、自治体が率先して環境施策について説明会を実施する水戸ができない3年かでしたがいち早く、ZOOM会議の手法を取り入れ、一年目には、ZOOM会議のやり方、使い方を時には個別に対応して、怪異が使えるように指導した。2年目からは、誰もが使いこなせるようになったことを確認した上で怪異の皆さんも、活動アピールできる場を提供した。</p>
----------------	--